

学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第 20 号



2016年10月23日発行

発行責任者 岡田守弘

芳川玲子

〒259-1292

平塚市北金目 4-1-1

東海大学文学部心理・社会学科

巻頭言

「学校心理士とコーディネーター」

議員立法により平成 27 年 9 月 9 日に成立した公認心理師法により、「学校心理士は今後どのような役割を担っていけるのか？」と不安を感じている会員の方が多いのではないのでしょうか。しかし、今、学校は、虐待・いじめ・発達障害・貧困など多様な困難を抱え心理的な援助を必要とする子どもたちが増えています。そのため、学校の状況を理解しながら、心理学の知識を持ち、子どもたちだけでなく、担任や学級、そして、学校全体に対して効果的なアプローチができる学校心理士は、より必要になってくると思われま

神奈川県では、平成 5 年から特別支援学校を対象にスクールサイコロジスト養成講座を開き、それは現在、すべての校種を対象にした教育相談コーディネーター養成講座に引き継がれています。特別支援学校の地域センター的機能では、地域の学校の支援級や通常級にいる支援ニーズの高い子どもたちに対し、特別支援学校が培ってきた支援のノウハウや教材教具を提示し、地域と学校と共に考え、子どもたちを支援してきています。小・中学校及び高校の側でもコーディネーターは校内組織に位置づいて、外部からの支援や校内資源を繋いで支援が効果的に機能するようになってきています。それを行えるコーディネーターには、アセスメント、カウンセリング、コンサルテーションの力が求められ、それは学校心理士に求められる力と重なります。学校の中で苦戦している子どもたちの状況が複雑化する中で、学校心理士の活動は期待されています。

このような子どもたちの現状に対して、横浜市、川崎市、相模原市では、小学校のコーディネーターの機能を強化し、学校の支援体制を構築しようとする取組が始まりました。この機能を強化した（専任化した）コーディネーターこそ、学校心理士の専門性を発揮できるひとつの役割ではないかと考えています。

2 月 26 日の第 44 回研修会では、横浜市と川崎市の取組を紹介していただき、コーディネーターを担っている会員の方にも参加していただき、「学校心理士がコーディネーターとしてその専門性をどのように発揮できるか」や「学校心理士とコーディネーターの連携の可能性」について考えていけたらと思っています。

(神奈川支部役員 上杉 忠司)

平成 28 年度神奈川支部総会 報告

1. 日時 平成 28 年 6 月 26 日（日） 14：00～14：20
2. 場所 かながわ労働プラザ
3. 総会の議事と審議結果
 1. 開会
 2. 支部長挨拶 田村順一（副支部長）
 3. 議長選出
 4. 議事
 - （1）第 1 号議案 平成 27 年度事業報告並びに決算・監査報告について・・・承認
 - （2）第 2 号議案 平成 28 年度事業計画並びに予算案について・・・・・・・・承認
 - （3）第 3 号議案 神奈川支部 20 周年記念行事について・・・・・・・・承認

（参考）

1. 平成 27 年度事業報告

- （1）総会 第 17 回総会 平成 27 年 6 月 7 日 ウィリング横浜
- （2）研修会

第 39 回研修会 平成 27 年 6 月 7 日 ウィリング横浜

（2015 年度春季南関東ブロック研修会）

テーマ「学校心理士のアイデンティティをどこに求めるか
～私のキャリアと心理師法案の関わりで～」

講師：大野 精一 先生（日本教育大学院大学）

第 40 回研修会 平成 27 年 10 月 18 日 ウィリング横浜

テーマ「神奈川県インクルーシブ教育の方向性と今後の展望」

講師：田口 雅巳 先生（神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課）

第 41 回研修会 平成 28 年 2 月 14 日 ユニコムプラザさがみはら

（2015 年度冬季南関東ブロック研修会）

テーマ「学校心理士の役割と今後の展望
～公認心理師との関連の中で～」

講師：山口 豊一 先生（跡見学園大学文学部教授）

2. 平成 28 年度事業計画 [研修会]

第 42 回研修会 平成 28 年 6 月 26 日 かながわ労働プラザ

（2016 年度春季南関東ブロック研修会）

テーマ「学校で使える子どもの行動や感情を変えるヒント
～C B Tを用いて～」

講師：沢宮 容子 先生（筑波大学教授）

第 43 回研修会 平成 28 年 10 月 23 日 ウィリング横浜

テーマ「虐待経験のある子どもへの支援の実際と学校に望むこと」

講師：高田 治 先生（川崎こども心理ケアセンターかなで施設長）

第42回研修会報告

日時 2016年6月26日（日）

場所 かながわ労働プラザ

「学校で使える子どもの行動や感情を変えるヒント —CBTを用いて—」

講師 筑波大学人間学群心理学類教授 沢宮 容子 先生

研修の概要

◆認知行動療法

・クライアントがどのような状態であるのか(環境にいるか/考えをしているか/ふるまいをしているか/感情や情緒の問題をもっているか…) & 身体にどのような変化が現れているか
→ クライアントの訴える問題を、クライアント自身と協力しながら解決に向けて整理していく。

◆カウンセラー

・比較的積極的な態度を通して(面接中よく語り、よく尋ね、クライアントに頻繁に確認を求める…)クライアントと良好な協力体制を形成する。[共に井戸を掘りあてるように]

◆アプローチ

・変わり易いところから、その人が困っている所から、新しいところから
→ 具体的で、現実的で、達成可能な目標設定 [もつれた毛糸をほぐすように]

◆認知行動療法の5つの特徴

(1)「心についての常識」を基礎

(2)「原因探し」よりも「具体的解決」を優先

“楽しい日記”などを書き、取りかかれそうな所に自分で気づく → 正の強化が得られる活動

(3)本人とその身近な支援者との「共同作業」

カウンセラーとクライアントが互いに協力しながら問題の解決をはかる。クライアントが主体的に答えを発見できるように積極的なコミュニケーションを行う。

(4)問題や症状ごとの「技術セット」が用意

様々な問題、症状、困難の種類に適した援助技法が用意され、援助パッケージとして整理。

・取り調べのようにならないように！ちょっとした言葉遣いが大切になる。

・特に子どもに対しては、非言語的技法+言語的技法で創造性と工夫が必要
(ゲーム、マンガ、人形劇、ペープサート、絵本、お話作り、日記等)

・本音を引き出す工夫(語尾をちょっと下げたり、曖昧にしたり、相手に預ける感じに)

(5)技術がオープンにされている

認知行動療法のモデルを学ぶこと

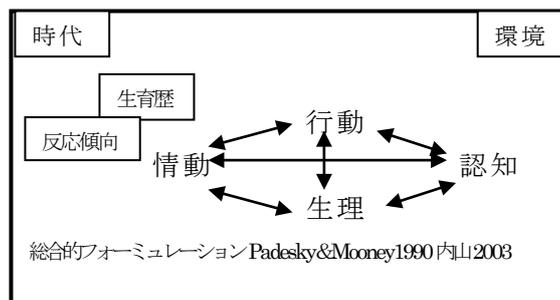
認知=考えること

行動=すること

情動=気持ち

生理=からだ

お互いが繋がっている



◆論理情動行動療法

・人間の悩み、不安、絶望などのネガティブ感情 ← 受け取り方(ビリーフ)に左右される

本の紹介



「ディスレクシア入門」——「読書きのLD」の子どもたちを支援する——

加藤醇子編著 日本評論社 2016年6月25日発行 定価1800円

加藤先生は、医師として川崎市内に発達障害専門のクリニック・かとうを開設し、その後、発達障害児の支援施設 NPO 法人ランファンプラザを開設し、医療・教育・支援の場を提供し続けている実践家です。知的な力はあるながら、読書きの困難さを抱え、学習面や学校生活で苦戦しているディスレクシア（読書きの学習障害）についての、入門書でありながら、医学的な研究の歴史から、最新の知識、磨き上げられた指導実践までも網羅した内容の濃い本です。コーディネーターや通級指導教室の担当としてディスレクシアの子どもを支援している方にお勧めの1冊です。

映画の紹介



「シンプル・シモン」2010年 スウェーデン映画

アスペルガー症候群のシモンはSFオタクで人と関わることは苦手、且つ触られることもダメ。嫌なことがあるとドラム缶製ロケットの中にもってしまう。兄のサムはシモンのよき理解者。しかしシモンのことが原因でサムは恋人と別れてしまう。サムに理想の恋人を探すべくシモンは障害者の仲間を巻き込んで行動を起こします。あまり馴染みのないスウェーデン映画ですが、ポップな色彩とテンポの良さで心地よく話は進み、じんわりとした暖かさが胸に広がります。



2016年度 日本学校心理士会大会のご案内

- 期日：2016年12月3日（土）・4日（日）
- 会場：東京成徳大学 東京キャンパス（東京都北区十条台1-7-13）
- 大会テーマ： 学校心理士の原点とは ー社会からのニーズにどう応えるかー
- 内容

研修委員会企画シンポジウム 【テーマ】学校心理士と公認心理師

大会シンポジウム 【テーマ】

- ①マイノリティの子ども達への心理教育的アプローチを考える
- ②多職種の協働による子どもへの心理教育的援助サービス
- ③学校へのコンサルテーション

[編集後記]暑い夏の後半は「超大型」が頭につく台風襲来の連続でした。気候の変化も否応なしに感じさせられますが、相模原市の津久井やまゆり園での残虐な事件の報に触れ、障害者のみならず社会的に弱い立場の人たちが生きづらくなっている社会が白日のもとにさらされたようで、そら恐ろしくなります。学校も一つの社会。生きづらい状況にいる子ども達に対して私達学校心理士はどのように関わっていけばよいのか…一緒に考えていきましょう。 ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp（編集部）